【第三種郵便物認可】【月ぎめ購読料4,900円（うち消費税362円）・一部朝刊180円、夕刊70円】

いつもの学校 まだ遠く

新型コロナ

新型コロナウイルスの影響で一斉休校していた小中学校の一部が16日、2週間ぶりに授業を再開した。ただ多くの自治体は「終息が見通せない」として休校を延長した。各地の大学も新年度の授業開始を4月中旬から5月に延期しており、学習環境の正常化にはまだ時間がかかりそうだ。（1面参照）

一斉休校は安倍晋三首相による要請を受け、文部科学省が2月28日に各都道府県教育委員会などに正式に通知した。法的根拠はなく、対応は各自治体に委ねられていたが、文科省によると3月16日時点で公立小中学校の99%が休校している。

感染者が確認されていない富山市は16日、91の小中学校で授業を再開した。市教委の担当者は「学び残した範囲を年度内に終えたい」と話した。静岡市も16日に129校で授業を再開した。

一方、東京都内は小笠原村と青ケ島村をのぞく60区市町村の1268小学校と601中学校がいずれも春休みまで休校となった。さいたま市や千葉市、横浜市なども「終息が見通せない」などの理由で休校をおおむね春休みまで延長した。文科省によると、全国の小中学校の78%が春休みまで休校するという。

感染者が増えている愛知県も休校を継続。県立高校の補習や部活動は休校中も必要な場合には実施を認めており、16日に引き続き部活動などを認める通知を出した。

各地の大学も4月の授業開始を遅らせる決定が相次いでいる。

早稲田大は4月6日としていた新年度の授業開始を同月20日以降に延期した。関西外国語大は4月3日から20日に遅らせ、感染状況によっては5月以降にずれ込む可能性もあるという。「日々感染者が増える中、教室などで集団感染が発生するリスクがあり、授業ができる状態ではない」（担当者）。東京理科大は4月上旬の授業開始を5月に延期した。

立命館アジア太平洋大（APU）は4月8日の授業開始を同月22日に延期。政府が入国制限を強化した中国、韓国からの留学生が多く、入国者は2週間の待機を要請され、新学期に間に合わないと判断した。

明治大は「延期を含めて検討中」で、20日をメドに方針を公表する。4月6日に授業開始予定の名城大も「授業開始を遅らせることも含め現在検討している」という。

再開した小学校に登校した児童の検温をする教員（16日、静岡市立葵小）

小中 一部再開 多くは休校

大学 新年度の授業 延期も

（第3種郵便物認可）　2020年(令和2年)3月17日

生活 調べ隊

憧れの仕事 学ぶ意欲に

キャリア教育も広がる

働く意味や喜びを知ってもらおうと、施設の子どもへのキャリア教育も広がる。

「1～2時間もお客様に寄り添い、『ありがとう』と感謝される仕事は他になかなかありません」

児童養護施設「聖園子供の家」（神奈川県藤沢市）で1月、美容室「モッズ・ヘア銀座店」の山崎秀男さん(43)が中高生ら11人に話しかけた。美容師を志した動機も語られ、高校2年の女子生徒(17)は「『喜んでもらう』というやりがいに気づいた。自分もそんなやりがいのある仕事に就きたい」と目を輝かせた。

髪の巻き方を実演する山崎さん（神奈川県藤沢市の「聖園子供の家」で）

これは、家族を通して様々な職業を知る機会がない子どものために、リクルート（東京）が社会人を派遣し、仕事について語ってもらうプログラムだ。コーディネートするNPO法人「フェアスタートサポート」（横浜市）代表理事の永岡鉄平さんは「社会で活躍する大人と接して様々な職業とその魅力を知り、自分がやりたいことを見つけて『憧れの仕事に就くために学びたい』という意欲につなげてほしい」と期待する。

一方、高卒後に進学しても中退する施設の子どもも少なくない。一般社団法人「青少年自助自立支援機構」（さいたま市）には年5人ほど、大学の中退について相談に来る。最近も、生活のため深夜のアルバイトに追われて体調を崩し、1年で大学を中退した女性が生活保護を受けられるように支援した。

中退した場合の不利益について、同法人理事の高橋多佳子さんは、行政や大学の支援から切り離されることや、奨学金の種類によって返済が必要になることなどを挙げる。高橋さんは「子どもをよく知る施設職員が自立まで伴走できる体制や、安心して勉強できるように返済不要の奨学金の充実が必要だ。中退してもう一度学び直せる仕組みも欠かせない」と強調する。

安心できる社会を

＊取材を終えて　大学時代に一人暮らしをしていたが、「お金に困った時には親に泣きつけばいい」という安心感がどこかにあった。

今回の取材で「万が一のことを考えてアルバイトで稼いでおかないと」という声を聞いた。病気でアルバイトができないと生活に行き詰まるという緊張感は、学生の頃の自分なら耐えられないだろう。

家族というセーフティーネット（安全網）がないまま、18歳で社会に出なければならない子どもが、少しでも安心して大学生活を送れる社会でありたいと思う。